

一つに結びつく世界（近世の幕開け）

～世界の動きとの関連に着目した学習展開例～

沖縄県渡名喜村立渡名喜中学校 中村謙太

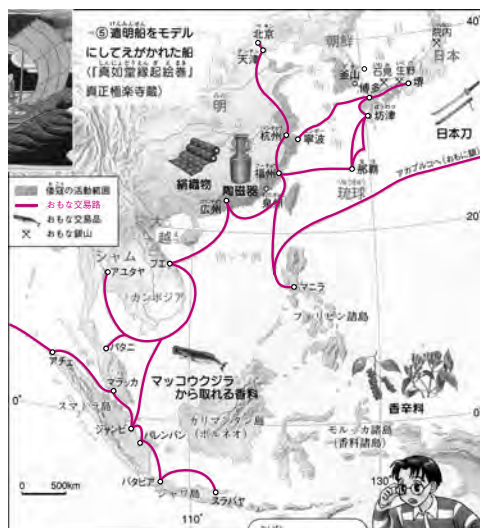
はじめに 授業構想の視点

本稿は、近世の日本（中学生の歴史 初訂版「第4章1節 戦乱から天下統一へ」）の学習展開例である。この単元は、「戦国の動乱、ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる」（中学校新学習指導要領）ことをねらいとしている。それを踏まえ本稿では、次の二つの視点をとくに意識して単元の構想を練り、学習展開例を提案したい。

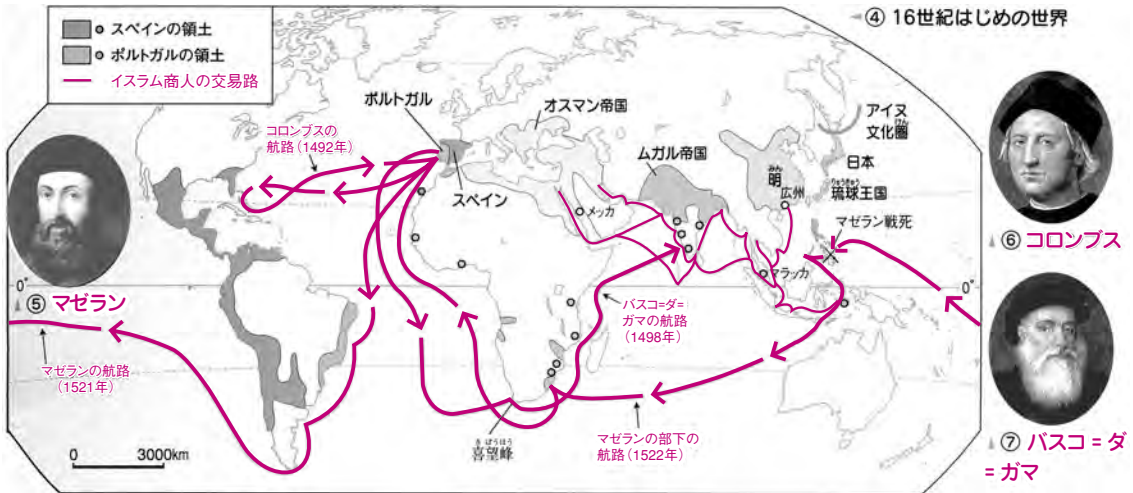
一つは歴史をとらえる視点である。戦乱の世が終わり安定した社会へと変化していく近世の日本の特色を理解するには、ルネサンスから大航海時代を迎えた世界のダイナミックな動きの中で、あるいは中国を中心に朝鮮・日本・東南アジア・琉球で展開された東アジアの国際関係の中で日本の歴史をとらえていくことが不可欠である。それは日本の歴史や文化が、世界のさまざまな地域や人々とのかわりの中で育まれてきたことを理解することでもある。そしてそのことが「我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」「他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う」などの歴史的分野の目標を達成させることにつながると考える。このような視点から、本稿では「中学生の歴史 初訂版」のp.90～91「世界史を深めよう

2 「一つに結びつく世界」を活用して、この単元の導入を図るとともに、この時期の日本の対外関係や世界の動きとの関連に着目した学習展開の例を提案したい。

二つめは学習活動についてである。平成20（2008）年3月に告示された新学習指導要領の解説書では、改訂の要点として基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を重視する観点や社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する観点とともに「言語活動の充実」が挙げられている。また同指導要領の「内容の取扱い」では、「歴史事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、意見交換したりするなどの学習を重視」することが明記されている。このような言語活動を意識した学習活動を展開することで思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ることをめざしたい。



「中学生の歴史 初訂版」（以下、教科書）p.93
「⑥16世紀はじめの貿易」



教科書p.91 「④16世紀はじめの世界」「⑤マゼラン」「⑥コロンブス」「⑦バスコ=ダ=ガマ」

2 単元構成について

3 学習の展開

第1時	<p>【一つに結びつく世界・ヨーロッパから来た南蛮人】 ヨーロッパ人の新航路の開拓の背景を考えることを通して、大航海時代の世界の様子をとらえる。その新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来し南蛮貿易が盛んになったことに気づく。</p>
第2時	<p>【信長・秀吉による全国統一】 鉄砲の伝来が結果的に戦乱の世の平定を推し進め、信長や秀吉の統一事業により、中世までとは異なった社会の大きな変化をもたらされたことに気づかせる。</p>
第3時	<p>【秀吉の政策による近世の幕あけ】 秀吉の検地や刀狩などの政策や朝鮮への出兵などを取り上げ、これらが日本の社会に与えた影響について考える。</p>
第4時	<p>【武将や豪商が競った文化・まとめ】 南蛮文化を受け入れながら、豪壮で華麗な文化を育んだことを学ぶ。ヨーロッパ人の来航が与えた影響を考える。</p>

以上の4時間で単元を構成する。

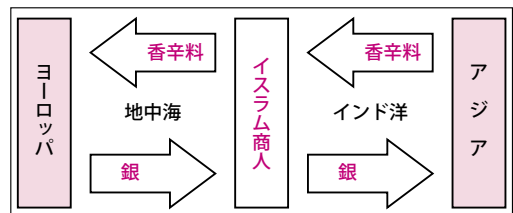
第1時 【一つに結びつく世界】

ヨーロッパ人新航路開拓の背景をつかむ

○教科書p.91「④16世紀はじめの世界」の図と教科書p.90の「②香辛料」「③ダウ船に乗るイスラム商人」の写真や図と解説、「大航海時代以前の貿易」の図を参考に、ヨーロッパ人の新航路開拓の理由を考え、そのことについてグループで話し合う。



教科書p.90 「②香辛料」(左)
 「③ダウ船に乗るイスラム商人」(右)



大航海時代以前の貿易

・香辛料を安定して手に入れるため、直接アジアに到達する航路の発見へ動いたことを気づかせたい。

- ・イスラム教とキリスト教について教科書の「思想・宗教」(p.89、90)を活用し大まかに把握したい。
- コロンブス、ガマ、マゼランの航路を白地図(ワークシート)に記入する。
- ・世界が一つに結びつくことに気がつく。

鉄砲が伝来、南蛮人との出会い、南蛮貿易

○教科書p.88「①日本に来航した南蛮人」の図や教科書p.89「④日本語に取り入れられたことば」の図を参考に、渡来した南蛮人や、外国の文物を目の当たりにした当時の日本人の気持ちを想像し、発表する。



教科書p.88「①日本に来航した南蛮人」

- ・教科書p.92~93「歴史の舞台④ 南蛮文化の窓口 堺」を活用し、南蛮貿易が盛んに行われていたようすを学ぶ。

ルネサンスから宗教改革へ

○教科書p.91「ヨーロッパの目覚め」を活用し、ルネサンスの概要を学ぶ。宗教改革がおこるきっかけを知る。

○「ルターの95か条の意見書」を参考にカトリック教会側とプロテスタント側のそれぞれの立場でロールプレイをする。

ルターの「95か条の意見書」(1517年)

- 36 真に悔い改めている信者は、免罪符がなくても完全に罪から救われる。
- 43 信者は免罪符を買うより、貧しい者に施す方が善い行いだと教えられるべきである。
- 86 富裕な法王は、なぜ貧しい信者たちの金銭でサン・ピエトロ大聖堂を建てたのか。…

キリスト教の伝来 布教活動

- キリスト教の伝来のようすを知る。
- ・カトリックの改革運動・海外布教活動の中で日本にキリスト教伝来があったことに気づかせる。
- ・ザビエルらの布教活動が、ヨーロッパのアジア進出を宗教の面から支える役割を持っていたことに気づかせたい。

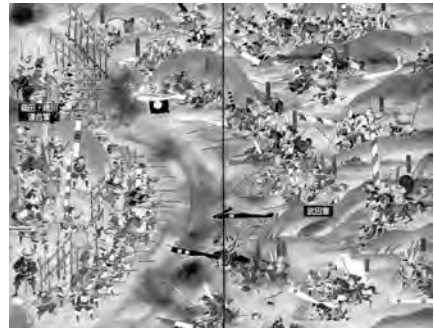


教科書p.89「③フランシスコ=ザビエル」

第2時【信長・秀吉による全国統一】

戦い方を変えた鉄砲(鉄砲伝来の影響)

○教科書p.94「①長篠合戦図屏風」をみて、戦い方に注目しながら読み取れることを発表する。



教科書p.94「①長篠合戦図屏風」

- ・鉄砲を効果的に活用したことに気づかせたい。鉄砲鍛冶によって複製品が大量に生産されたことを補足説明する。(教科書p.93「⑨鉄砲」「⑩鉄砲鍛冶」を活用)
- ・鉄砲の伝来が全国統一を進める原動力になったことに気づかせたい。

信長の政策を考える

○織田信長が実施した政策を、全国統一をするうえで必要だったもの、必要ではなかったものに分類し、なぜそう思うか自分の考えをまとめ、それを元にグループ内で意見交換をする。

《検討する「信長の実施した政策」》

「天下布武」の印章作成／將軍足利義昭の追放／比叡山延暦寺焼き打ち／一向一揆の平定／安土城の建設／関所の廃止／楽市・楽座令／堺の自治権剥奪

《その際活用する資料の例》

楽市・楽座令（1577年）

- 安土の城下町に対して定める
- 一 この城下町を楽市とする。座の規則や雑税などの諸税はすべて免除する。
 - 一 商人は上街道（のちの中山道）の通行を禁止する。下街道を通行して安土城下で宿をとること。…

豊臣秀吉の全国統一

○豊臣秀吉による全国統一を確認する。

第3時 【秀吉の政策による近世の幕あけ】

刀狩と太閤検地による社会の変化に気づかせる

○秀吉がなぜ刀狩と太閤検地の政策を実施したか、そのねらいを考え、話し合う。



教科書p.96「②検地のようす」

○刀狩と太閤検地の結果、農民の生活はどのように変化したか考え、話し合う。
 ・兵農分離が進み、近世社会の基礎が築かれていくことに気づかせたい。

信長・秀吉の対キリスト教政策

○キリスト教に対する信長と秀吉の政策の違いを理解し、その変化を通じてキリスト教が日本に及ぼした影響について考える。

朝鮮侵略を多面的に考える

○秀吉の朝鮮侵略を、秀吉の立場、朝鮮の民衆の立場、朝鮮に派遣された武将の立場で考え、ロールプレイによる話し合いを行う。
 ・この侵略で朝鮮の多くの人々が命を落とし、貴重な文化財も失った。朝鮮社会に深刻な影響を与えたことを理解させる。
 ・朝鮮出兵を明征服の足がかりと考えていた秀吉はその食糧の負担を琉球にも要求した。琉球側の返答を考えさせることで、多面的な思考を促す（琉球は要求の半分の食糧を負担するが、同時に宗主国・明に対し秀吉の出兵計画を通知した。「日明両国の間で難しい外交を選択してきた琉球」という視点でも考えさせたい）。

第4時 【武将や豪商が競った文化・まとめ】

安土桃山文化・南蛮文化の特徴

○教科書p.98「⑤姫路城」や教科書p.99「⑦カルタ遊び」の図等から安土桃山文化、南蛮文化の特徴をつかみ、理解を深める。

単元のまとめ

○ヨーロッパ人の来航が与えた影響をこれまでの学習を振り返って考え、自分の言葉で表現する。意見交換を行う。

4 おわりに

今日私たちは、グローバルな社会を迎えている。世界中のあらゆる物資や情報が行き交い、相互に深く影響し合っている。まさに「世界が一体化」している今日にいる私たちが、近世日本でおこった「ヨーロッパ人との出会い」の場面を想像し、その後の歴史や文化に与えた影響などを考え、歴史の奥深さも感じながら、この単元の学習を進めていきたい。

《参考文献》

- 「目からウロコの琉球・沖縄史」上里隆史著（2007年 ボーダーインク）
- 「図説 琉球王国」高良倉吉他編（1993年 河出書房新社）
- 「アジアの中の琉球王国」高良倉吉著（1998年 吉川弘文館）